

新しく作成したポスターを手にする青柳会長



建設業者の応援ポスターを作さんをポスターの中央に配成した。昨年に続き、パリ五輪柔道女子48^{kg}級の金メダリエる「や「つよいぞ群馬」とスト、角田夏実さんを「広報大使」として起用した。21に並べた。

21日、前橋市の群馬建設会館で会見した青柳会長は、角田さんの祖父が昭和村在住であることに触れ「地域にゆか

会員企業の女性社員でつくあることに触れ「地域にゆかある環境すみずみパトロールのユニホームを着た角田

県建設業協会

応援ポスターに角田夏実さん

た。セージがしっかりと伝わるポスターに仕上がった」と話した。

長は、第4弾となる県内

県建設業協会（青柳剛会

柔道金メダリスト・角田夏実さん起用

群馬県建設業協会（青柳剛会長）は21日、2026年度の地域建設業の応援ポスターを発表した。広報大使に、24年パリ五輪柔道女子48kg級で金メダルを獲得した角田夏実さんを起用。青柳会長は「災

角田さんを起用した26年度の応援ポスター
（群馬建協提供）



害や人材確保、生産性向上に『備える』ことをテーマにした」と説明した。ポスターは会員以外に国土交通省や県、学校などに計2100部を配布する。

群馬建協は分かりやすく親しみやすい広報に力を入れている。ポスターは災害対応力の高さや群馬県の強さなどを意識。学生など若者への情報発信に活用する。角田さんは25年度に引き続き2度目の起用。1月の現役引退を踏まえ、柔道着ではなく、会員企業の女性職員で構成する「環境すみずみパトロール隊」のユニホームを着用してもらった。青柳会長は「建設業界により近づいたイメージが伝われば」と話した。

群馬建協が地域建設業応援ポスター第4弾

人材確保、災害に「備える」

地域と災害対応組織力をPR

群馬県建設業協会（青柳剛会長）は21日、地域建設業応援宣言ポスターの第4弾を発表した。25年度に引き続き群馬県に縁のある角田夏実元柔道五輪メダリストを広報大使に起用し、地域建設業が人材確保、災害、生産性向上に「備える」ことをメッセージとして打ち出した。

同日、前橋市の群馬建設会館でポスターを発表した青柳会長は、「生産性向上を進め



第4弾ポスターを掲げる青柳会長

ていく中であっても労働集約型産業である地域の建設業にとって、人材の確保育成は大きな課題となっている。そうした中、地域の建設業ならではの若い人に向けた分かりやすい広報戦略をと考え、昨年度ポスターを制作してきた。

今年度はさらに、地域と災害対応組織力を意識したポスターができないかと考えて作成した」と狙いを説明した。

第4弾ポスターは、角田さんが会員企業の女性職員による環境すみずみパトロール隊のユニホームを着用し、「群馬の強さ」も伝えている。2100部を作成し、全会員事業所のほか、群馬県県土整備部や農政部などの関連部署、国土交通省、県内工業高校などに配付して、業界の存在をアピールする。

25年度に作成したポスターは、支部で不足するほどの人

気ぶり、「作業所や小中学校などにも配ることで幅広く魅力発信ができた」（青柳会長）という。

中東情勢踏まえ

緊急アンケート

群馬県建設業協会は、中東情勢の緊迫化に伴う会員企業への影響を把握するため、緊急アンケートを実施する。民間・公共建築や土木など全ての工事を対象に、材料の価格や入荷状況を調査し、工事の遅れなどの影響も把握する。利益や採算性、今後の見通しなども調べる。20日に調査票を配付、週内に調査結果をまとめて、来週中にも公表する予定だ。青柳会長は、「現状がどうなっているのか、オンラインで把握すべきと考えている。1回限りではなく定期的に調査していきたい」と今後の方針を示した。

群建協

テーマは「備える」

応援宣言ポスター第4弾

群馬県建設業協会（青柳剛会長）は21日、キャッチコピーに「備える」を掲げた地域の建設業応援宣言ポスターの第4弾を発表した。2025年5月22日に発表した「育てる」をキャッチコピーに据えた第3弾に続き、モデルには父親が昭和村出身で、パリオリンピックの柔道金メダリストである角田夏実さんを起用。ポスターには同協会の環境すみずみパトロール隊



新ポスターを手にする青柳会長

が着用しているユニフォームを身にとった。建設業のイメージにより近

づいたポスターとなっている。

角田さんが着用しているユニフォームは全国建設業協同組合連合会のユニフォームデザインコンテストで最優秀賞を受賞した。ポスターは2100部作成し、県土整備部や農政部、国土交通省本省、県内の国土交通省出先事務所、工業系高校などに配布する予定。